

八〇年三月十六日 西淀川聞き取り調査(榎島)

。いままで学者の先生方に何回か集まっていたのですが、どういふふう  
に西淀川の中、被害がどこまであったかということまで調べれば研究してい  
たかったです。ご調査いただきたいということでも、古くから地えにおらぬ  
方何人かに集まっていたので、どういふふうな状況であったかや、  
くばらんに話していたのですが、その中でこちらの方でも、また鬼  
者さんとも一緒に西淀川の公宮の歴史を考えていきたいというこ  
とをしたらけども、現地じゃないとなかなか集まらないということもあり  
ますし、各地域ごとの第一弾ということも榎島の地域をやらしこも  
らうと、また福とか、そういったところも考えたい、という趣旨が  
お聴きしたいと思えます。

まが自己紹介と僕の方から、西淀川の公宮兼護国弁護士の  
浮留嶺です。

。同じく公宮兼護国の弁護士の早川です。

。私、小山と申しまして、関西大学の教師です。専門は日本の近代史  
で、明治、大正、昭和時代の日本の歴史ということになっています。  
西淀川の歴史のことは全く何も知りません。さほどまでには少しでも  
勉強しなくてはいいんですが、それもまだ何もせずにやっこまわり  
ました。というのには、皆様方に教えていただくこと。特に重点は戦  
後、戦争ごこの地域がどうなっこと、そしてその後皆様がどういふ  
ういふに生活をなされた中で、公宮のこととか、歴史がどうなっ

こまたような話とかね、あるいは体はどうしたえこまたかという  
いような話をあちらこちらで聞かせていたのだと上で、自然に西渡  
川の公書訴訟にお役にもまつんじゃないかと、そのように思っ  
ております。どうぞよろしくお願いいたします。

。私、桃山学院大学で教えております。飯島と申します。私は  
歴史の専門家ではなくて、専門は社会学というものなんですが、  
ただ、そういう社会学の方から公書や労働交渉書の歴史について  
研究しております。全国的なことについてはある程度つかんで  
いるんですけども、やはり西渡川のことについてはほとんど知ら  
ない状態です。ぜひ、こちらから勉強させてください。と思っております。  
どうぞよろしくお願いたします。

。私、ちょっと肩書ははつきりごいませんので。小山先生に、学  
生時代に公書のことと調べたらどうかということ、大阪の戦前の  
公書問題について少し資料を集めたり……と書いたりとい  
うこともございました。当時西渡川区という方は……だけだ  
けども、いろいろ資料を調べてみましたところ、そういう関係の  
資料は新聞に出るくらい以上にもうひとつ明確に出ることはない。  
にた、こいたところ、こういう機会にいろいろ教えた方がいいと、  
一つおっ手ばかりにしたいなというふうに思っています。現在関西大  
学の非常勤講師で、そのほか、和歌山の方で史誌編さん室に任  
事しております。

。私、因丸 イサノ と申します。

飯島は何年ぐらい住んでいますか。

昭和十二年に引っ越してきました。

夫れですか、いま何歳ですか。

七十九、六十九ぐらいですか。(笑)

北村 キタノムネ

年数忘れもしもうたけど、自分が三十五からいやつたから……  
いま七十八ですわん。三十五からいりうたら何年かにはなりましたわ  
昭和十二年ころですわ。同じころですわ

矢野 ヘイオ

陰山 ツネシロウ

年は、しうすんに六十五になる。姫島生まれ。  
れ。生まれつきのこっちですけど、昭和三年から十八年まで  
自分と二の南見上、大阪の方へ行、とりました。昭和十八年  
にまた生まれ故郷へ戻、こ、十五年間はプランクが成  
ります。

新田 ニヤコ びす。二十六年。

永田 セイジン もう三十三年目ですわ。

沢中 ワカウ

森脇

私、奥藤びす。

大塚皆さん方、昭和十年代からいからおいでになる方、戦後すぐ  
というふうな方が多い。戦前からおいでの方は国丸さんと、北村  
さんは何年かうでした、けな。

私、ここの生まれ。大野で生まれ、姫島へ、として現在。

北村さんはお幾つでございますか。

七十五。

新田さんはお幾つですか。

私、五十八です。

永田さんは。

七十八や。

矢野さんと同じようなもんですわ。

「フツと違う?」一緒かな。

姫島にはいつ来られましたか。生まれこから姫島ですか。

三十三年間住んでる。

昭和二十二年ですか。戦後ですか。沃中さんは何年かからこちらにおいでですか。

姫島生まれ、五十八歳です。

北村さんは大野でお生まれになったということでしたか。

大野や。十九の年に姫島に来ましたんや。

大正の終りくらいにや。

大野さんの場合、お生まれのことでしたか。

あしは昭和十三年に兵隊へ行つて、二二へ帰つて来たのが、それから四年、五年して。

とゆまでは西淀川ではなかつたわけですか。

梅田で。

梅田の方が生まれやつたか、なるほど。

そうすると北村さんあたりにはお話を聞かすのが一番早いという感じしますか。ど、ほかの方もああいうや、おっしゃつていただいたら、北村さん、二十歳前ぐらいは大野からこちらへお越しになつたんですか。この界隈の風景はたいなものもおっしゃつていただけないでしょうか。

・ ちようどいまの橋の向う側に帯皮会社がありますな。現在は日本皮革。

・ 帯皮、帯皮言うてた。

帯皮つくつたわけ。

帯皮の横手回つて姫島に来たわけですか。大島橋、ちよう橋越えて、姫島に入つた。

・大野川という川がそのとちろあつたんでしよう。

大島橋のかかりの辺の、いまニッポになつてますけれどね。

・大野川というのね、大島橋の下を通つて、自転車道、みれがどんだ  
そのころ工場なるといふのはどんなくらいでしたかね。

工場は硫酸というておましたけどもな。大和田の何やい  
う……

ニッポンの  
の形

福重曹日違うか。

・福重曹の真向いに硫酸並んどつたわけですよ。ヤンキーい

う石たいと硫酸とつたわけですよ。それがいまの大和

田の甲皮の向こう側にいま市営住宅をかけたいなん建つて

まっしやる。ごみ焼き場のあの辺に硫酸というのはあつたんで

すわ。

・<sup>ニッポン</sup>化学と違うう？

・<sup>ニッポン</sup>化学は <sup>フクシマ</sup> やが。

・こっちは日本化学。向かい同士であつた。

・向かいは何ちやうな名前やつたか。

・どっちも赤い石を出しよつた。青いような色やたいな

石だな。

・私らの子供の——硫酸、硫酸という——

・硫酸をつくりよつたんですわ。

北村さんニッポへ十九年くらいのときにどうして引越してこられたの。

本宅が向こうにあつて、<sup>カミコン</sup> 蛭島で <sup>チヤウ</sup> 寄せの

屋があつた。その小屋居つてたおじさんが、私、職は大工です

からな、大工こつちへ来たほうが便利がええからこつちへ来てとく

わいうて、とやで来たんです。

住まめたのは、

・ 榎島神社から約千メートルほど西寄ったところ。

そのころ大工さんでお蔵した方だ。

・ ええ、大工の ホウズ ござな。

そのほかには工場みたいなものも目立ったものはなかつたですかね。

・ ニンニラおまへん。 大島橋という橋がおますね。橋の横

手には学校があつたんですわ。

同じ、田んぼですか。

・ ほとんど田んぼやとか、いまの帯皮会社というところはサトウキ

を植えてあつたりしてあつたんですわ。

・ ニンニラには南公園というところでしょう。その前に帝國

銑鋼というのが昭和八年か九年にできたんですわね。

・ あれ、平うつとあつたやん。

・ いや、昭和九年…… 室戸台風のときにあつたのは地鎮祭  
したんやから。

・ 帝國は銑物やつたやろ。

・ 鋼、銑物やから。

・ あれが一番早いやろ。

・ その前に、ニニカタン いうところなんですわ。その人が

銑物屋をしたら、それで初めて大正区から イソノタ はんが

こっちに工場進出したんやから、昭和四、五年ぐんにもう

ニニカタン は ビキ とつたんです。その旧国道から ニニカタン は

ニニカタン とレコン橋は 福 まじ丸見えやつたんですわ。こ

の近所は、堤防の下に、オオウ 牧場いうところを少し飼う

て乳をいぼるところがあつたらしいですね。この近所は榎島

川いますけど、所は佃とか所とかいろいろあるんです。それ

は持ちまかせ佃の入やから佃といふよんを字で、  
「おきん」佃は「おきん」といふ。佃というなら向こうですよ。「いや、佃  
おきん」といふにめんおん。「おきん」やな。この中学校の近所は  
町があらたなですよ。

・いま大島橋から見るメートルほど南へ下がったところに狩管  
住宅があります。狩管住宅の跡が、昔の松岡紡績と  
めは間違におまへん。

・でもこの近所にはもう工場という工場はなかったですよ。  
・松岡紡績からかうううと電車のキヤにめんのが、日本化  
学。そのほかにも会社おまへんが、こん。何もなかったんじや  
あ。

・何にもなかった。鎌倉の旧国道との間というたら何にもない  
しや……

あや日本化学、伊藤重吉というところですよ。

大日本 ニッポン というのはどこにもあるんですよ。

・それが硫酸や、硫酸や。

当時の佃はレンコンですよ。

・レンコンはつくころ人があつちやこつちにはおびおびになつてたて  
かいか。佃というたところでもうどブツブツ汚いなんでしたん  
や、荒地おたいな状態でしたんや。

・何しろ私が覚つとつとじゃ、昭和三十七年に大塚習のあつたときに  
大師園の方からウニへ来たときは、この付近は麦畑とレンコ  
ン畑、それからまたまたまよく目についたやつはクスノ木ですよ  
やな。このクスノ木が、私がその当時見たものの一刻もないと  
いうくらいですよ。もこにいま緑地公園に埋め立てるけ  
ども、あの川でそのときは、手榴弾を投げ込んで魚をとつて

かしらがお食うたもん。飯盒で煮えた。

・それが大野川という川。

・いまはないですな。

・いまは緑地公園になってるんですけどね。

・川魚がいっぱいとれよった川が、結局船もいま日本化学に原料を移ってくる船が入るともわけですわね。それがいまの大島橋よかちよつと上まで行きたったわけです。が、と下から追い上げるとき、とれや一途に出にくいんです。川幅が狭いから、二隻並んでリッパ することはできません。引潮のときにね。おろしの上によがって、次のやつが来こおろして、また上によがって、全部おろしたら、全部が出こいくわけ。

・先生方、大野川というのはこの線なんですけどよ。いまはもう川はなくなっちゃって、公園になって、わつとサイクリングロードだけになったんですけどね。

・何しろ植物にも公園やということに私はなにするんですけど、この工場がびきこからちやうと、支那事変からこっち。満州事変のときには少なかつたわけですわね。支那事変になって、いま東洋光熱ちやうとあるんですけどね。あ、その人が戦車のためやら砲弾やら小銃のたまやらつくりよったんで、たんで、いまでもつくりよるですよ。

いまもその名ですけど。

東洋光熱。いまもつくりよってですよ。

恐れ入りますが、後からおいでいたんで、お名前を。

吉原正吉。六十二歳。

・こちらにはいつごろからお住まいですか。

定住したのは第二室の白根からです。



いまの米榴弾をほり込んだというのは、

それは昔の志願した少年兵のことですわ。

このあたりが訓練場。

少年兵は東京の近衛師団が……から、それをたまたまなら各師団に少年兵のなにかあったわけです。あつたが、ヤンキー六師団におつて、八連隊と演習があつたわけですよ。

ここで演習したんですわ。

大体中心地は下関やったんですけれどね。結局その戦況が悪かつたせいかな、あつたが強かつたせいかな、大阪まで攻め上げてきて、ここで休憩したんですよ。この付近で一週間自由行動とした。

昭和七年の演習ですわ。それは何という演習ですか。

それは、御大典……

御大典はらよつと……。覚えてもらえませんが。

・ 昔の米軍部の演習ですわ。

・ 秋になったら必ずあるんですわ。

・ けれど兵隊に關係ないさかい、そんなことわかりませんわ。

しかし、演習する場所があつたというからや。いまやたら、ここで演習してませんやう。

・ いまは空砲でもがラス割、こしょう。

・ 大和島の……ころあこの横手のこつちや、古戦場の跡があつたわけですよ。と、覚えてるわけですよな。

演習の中心の本営はどこに置いたんですか。

・ 御幣島に……の音ナマが……にあるんですわ。某

一病院の裏へや。

御幣島ですな。神崎川の……。

・お宮さんの跡があとこにありません。そのお宮さんの横にあ  
る、何ちゃん名前が忘れたはじや。

・御幣島公園や。

・いまの御幣島公園ですが。

・宮跡がめんめん。あとこへは吉神社跡と言いた大キな記  
念碑がせってます。

・このあたりで宿泊しましたか。

・野宮です。ここへ来たとき一番待遇のよかつたとは、いま  
でも覚えとんですけど。この姫島神社ですわ。あとこに  
碑が立つとんですわや。あの碑がいまの姫島神社の中に  
あったとじゃないんですわ。その当時はまだ姫島神社よか  
ちよっと上の方にあたんですわ。私なんか支那事変から  
帰つてきたら、あとこに直してあたわけです。その土地の

人に聞いたり、納得するような説明してくれてすけどや。  
捨てるわけにいかんし、結局こちらへ移ってきた。あの  
字も読め切る人は多分あらへんやろと思っんですわ。  
何の碑です。

・大体 <sup>ヒシマ</sup> 神社時代の……

・ヒシマ言わんと、ヒシマ、ヒシマ言うた。

・その当時の風景ちやうたら、いまより相きいいし……

・吉村さん、いまこの地帯で魚をとつたと言うたな。その当時の汚  
れから見ると、大日本があり、その後 <sup>ヒシマ</sup> が大分汚し、こち  
で日本化が汚し、帯皮が汚して、この川は死んでたん達う。  
・もう死んでった。

・この川が死んだのはいつころ。

・おまえがヒシマうころ時か、まだこの川が生きとった。

・めしが——しにきたとき、はまだ青々としとった。  
その川が死にかけたのはいつごろ。

・もうもう終戦後。

・戦争過ぎてから、ジサほったり何やかんやしこね、汚な  
なつたわけですわ。

・戦前はこの川は生きこたわけてすわ。

・生きこった。

・めしは大野から榎島まで船に乗って、船でとこの

橋まで来たんや。ソノツル 橋まで来て、船で往復してたん

や。おれは川入はまったんや。

・二十四、五年ごろまで、まだその川、きれいやった。

泳いどる人なんにおりました。

・終戦直後はまだ、阪神のニッコヤ ありまっしやる、あの辺

で泳いどましたんや。

・ユブナや何やかんや、皆とっこましたんや。まだ水、きれかつ

たんですわ。

・どこで、大野川で泳いどはったの。

・大野川のつまり上流にならんかな。いまの阪神電車が

通るとる下あたりは、チッコ 川いつこ、きれいとおましたんや。

・とうすると大島橋より上の方はきれいだつたわけ。

・もっとも上の方がきれいやった。

・泳いだり、魚なんかおもしろいおりましたわ。

・めしがだんだん濁って、もう今度はおドブになつてしまつた。

・めしはいつごろですか。

・めしは何年ごろかなあ。

・二十五年から二十六年や。



・ 塞き止ったんは不令變やがな。

（言）それからは、もうこの付近は臭うて臭うておれなかつた。吉村さん、兩人は昭和七年に演習のときにここにきて、それから戻って来たのはいつ。

・ この人の話はあこにならんや。

（言）終戦の一年前に帰ってきた。

とやから、この人の場合は昭和七年と昭和十九年ごろは記憶が  
あふ思いうめんけどな。

・ 吾の誰、しとるやつを……

にやいや、自由に話としてもらった方がいんどすよ。

この川に沿って昔いろいろ工場があるて汚したというけど、見るとこ  
ろ、一番昔は伊藤重曹から日本化学というのがあるたや。松岡  
紡績がこっち側にあるて、向かいが帯皮だ、そのうち側が大日本

……後のニヤサン

（黒板に地図を書く）

この日本重曹、このうのはかなり大きなたです。

・ 道はあつと云いことおまへんぞ。

道じゃなくて、工場だ。

・ 伊藤硫酸より——の硫酸の方が古いやろ。

・ そら古い。

あの川を一番汚したのは、その日本重曹……

・ あの川にスス 会社が何やいう会社があるたな。福に

寄た方にスス 会社いうてあつたやろ。あれは日本重曹

の向う側だ。

・ あれは ジンケラ からちよつと向こう側にあつてん。学校へ行

く方に。堤防に切つて橋してあつてん。

・あゝ、あゝに。

日本重曹という会社はいつごろできた。

・戦と別々……

・満州時代か。

・子供の時分からおまんねん。

大正十年ころか。

・その会社も、と古い。日本重曹と言ったかどかにはちよつと別でしやう。

・この日本重曹がこの川を汚した——なかつたんですか。何が悪いものを流してや。

・悪いのはこれや。川を汚したのは、皮会社つきたらもうあきませんやな。

・皮つくとてな、その皮洗濯した赤い水をどつどつ流した。

色がつくやけ。

・外国から来た牛の皮を洗うやろ。洗うた汁を川に流した。

・やたいら子供の時分は、米洗うてた。

・ここで米洗うてたん。

・この川で。

硫酸がどきると別ですが。

・いやいや、建ってました。

建ってても。

・もつと別言うたらや、その重曹のあつころに、その手で別で米洗うてた。

・この川で米洗うてました。魚でもフナやあんなもん、よけいきました。

福の町とか大野はここど昔はお米を売ってたも、ところが使えなくなるでしょ。福の町なんかは水を買い始めるでしょう。

・飲め水は淀川からくんできて船に積んで売りに来た。いつごろから売るようになったんですか。

・子供の時から。

井戸はどうなってますか。

・井戸はおきました。

井戸の水は、飲め水にはどうなってますか。

・古い家は、私らの十二、三の時は井戸水ばかり。

とれがなせ淀川の水買おうんですか。

・ええ水やいうさかいに、ラッコに一杯、三十円なら三十円と買

うたわけですやな。

福町の水屋という、あとこ売ってたんですよ。姫島ではどういう水

屋さんというのはないわけ。

・姫島になかった。

・もうどうやら水道フキましたからな。

水道いつフキました。

・子供の時からいつかでしょうや。

というたらいつごろでしょうや。

・昭和三、四年にフキました。とれと井戸と併用してました。

・井戸水で生活してた。大野は井戸水があっても大野の家

だけで、小、こい家は皆田舎に行ってた。

水道ができたも、水売りに来ましたが。

・姫島地区の方はあんまり聞きません。

昭和になつたころ、ミニラ辺はレンコン畑とかサトウキビ畑とか麦畑とかいろいろだったけども、ちよと畑だったわけ。

水田はどうですか。米つくりましたか。

米は百姓が——

田んぼは日本化学の周辺にちよとあった。

米は知りませんが、畑もありますやう。あの辺変電所を  
除いて全域畑でした。

国道のミニラ一帯は全部畑だったわけ。

ちよと手前の右側に トラクタ いうミニラ人家がありました。  
こんな電車なかつたですか。

おまへん、おまへん。その時は電車おまへんや。

ミニはいまは畑里やけど、昔は トラクタ いうた。ミニの トラクタ 助に  
ちよとあただけでんや。一筋、車と両側に。あとはほと

んど……

トラクタ っていうのはいつごろの話。子供の時から、そう。

いまでも トラクタ 人やつたら トラクタ いうたうあ、こま。

まだ大正時代は トラクタ 言うておしたぞ。

ミニ一帯は畑やな。

とわぞ、阪神の本線の駅のとこに、変電所がありましたんや。

古川のあたりは皆田んぼでしたんや。

(場所を聞きとりながら地図をまわす)

おまへんおまへん、こまのは、すでに西淀川区になつてる。その トラクタ 村の  
話と違いますねな。大正十四年に西淀川区になるはずですよ。

そのまでは西淀川の トラクタ 村です。



その当時、この両脇には、それぞれ年代が違ふとは違ふけれども全部  
家はあつたわけである。街道筋、どの辺が切れたとこない？  
・大概詰まつた。

・古い家が残り、とらいうのは、この人向道路が堤防の方へ寄  
つた方。こゝちは全部焼けた。

焼けた地味を先聞こうが、どのくらい焼きました。空襲で……  
・焼けなかつたのはこの線を入れこ

阪神まで全部焼けた。  
・大島橋の辺まで行きましたかな。

・うん、焼けこしもうたよ。  
旧街道の向う側は残つたわけ。

・残りました。中央市場の市役所も残つた。

・帯皮の会社は焼け残つて、こゝにニッサン 石鹼の何か石鹼

会社があるやう。あの近所のかたまりは残つたけど、こゝちの  
公園内はたいなとこは皆焼けこしもうた。

こゝして焼け野原になつたのがだんだん戻さかまると、いまはたい  
にならぬやう。こゝの話を一番聞きたいんでや。

(テープ転換)

・名前が変わることも。同じ会社——

日本化学のこゝに福重曹というのがあるもともとあると——  
・三遍交わるとまんねん。

当時の新聞見えますと、昭和七年十二月十七日行朝日新聞で、福  
重曹株式会社、同社は硫酸製造の際に排出する排気が又が農

産物に及ぼす被害に對し、毎年賠償金を支払つていたが、こゝし  
(昭和七年)はその被害がはなはだしく、約五割の収穫減になつた。

被害田畑約二十八十町歩と書いてあります。耕作者、同じ大和町

ハナガク

外五十四名。全農人全国会議派、姫島、野里

ついで昭和三十七年十月以来折衝を重ねたが、ついに十二月十六日市街

地内民約五十人は会社側に押しかけ、うち二十人は入ったり込ん

て、昭和三十七年十一月十四日にも同じような記事がある。

このときは福町、大和町、姫島、大野町住民千三百名を代表

して、大阪府会議委員のチャモリさんに伴われた約十名が府の工場

課に同工場の移転を陳情している。いまの日本化学の掛出が

入被害で約二十八町歩の耕作……これは昭和三十七年、九年になっ

たらもっと古いと思えるのでは。

・その時分が伊藤硫酸という名と別達いまいか。

福重曹、と書いてあります。

・伊藤はその前のやつ、チヤ。

・とかかひっかがたときになつたら、いきなり名前を変えとつた

わけやな。三つも名前が変わると。

この話の記憶ある方はご存じありませんか。

・結局大和町の前やう。

大和町の年の冬ですな。

・とかに参加した人が大和町にはおこまますわ。

・という人、出采向の百姓や。

・その当時は、いまの東洋光熱の付近に鬼ヶ原が中うと

さうだった。日本化学にもさうだった人じゃから。本隊は

おうと

川はそんなに汚れてなかつたという話ですけど、空気がちよつと臭いが

あつたか……

・とら硫酸の臭いさうもやがましやう言うてましたな。

……

・硫酸の黄色い煙とかな、そんなもんが……

いづれからですか。

・戦争前くらいから。

黄色い煙ですか。

・黄色い煙はたり白うなたり。

・鉱石くばるときは一番臭うおまんねん。ガスが出まっしゃる。

・鉱石の石がたまっしゃる。あれもたまへくばまんねん。そのとき

カラは何とも言えない。

・その石を川のふちにおくと捨てよったんや。いまの チンオサヤ

とこへもや。

・その下の方。皆鉱石のカスばっかしや。

それは日本化学ですか。

・日本化学の。いまは鉱石、そんなもん使うてしまへんぞ。いまは

ソーグビヤうてますや。

それはどうなんになたんだですか。

・働いとつた。

一日にリアカーに何ほいちやう……

・リアカーどころのサウヂじやなからうな。やっぱリーカマ

はしけに積んど

・その時分はこういうかごに入れてや、青い石は船から揚げて

それからまたそのカスを船に積んど なして売る

売れんよう

になたら道路に

・いまから三、四年前にあそこを掘ってかたけれど、都令の悪い

ことに、あんまりその効果が見られなかつたんじやな。

いや、あれは六箇クロムが出んかつた。掘って、コウヤク いろいろなも

のがいっほい出てきました。クロムは出なかつた。いま出てるは日本

化学のニンのヤフで、大野川に捨てたところで、昔いふんなものを積み  
上げた。持ってきたヤフをね。その一角に捨てた人だ。ここに  
た人やという証言があったわけですが。そのためにこの一角を掘っ  
たんだけど、思いうも人が出てこなかった。結局は日本化学の中  
に六缶のロムがあった。それはいまコンクリートで凍結しているわけ  
ね。いま、こういうふうに残った後やけど、たとえばいま流中の跡  
なんが爆弾池ができたとか、この辺もとんな池がいついできて  
た人違う？

・大分池ある。

ビニラ辺に爆弾はいる。

・このお母さんの裏、あれは川が、ニニ辺がずっと大きな  
五トン爆弾、千トン爆弾、千トン爆弾、千トン爆弾、千トン爆弾、  
千トン爆弾や。千トンヤンたらえうにニニヤ。

(皆の地図の場所を口々に指す)

六月の空襲ですわ。

・六月十五日か。

・六月十五日か、間違いない。

・そんなとき、福の電車の隣の付近にも大分ソウシとして残った

空襲は何通もありましたけど、一番やられたのが六月十五日、ニ  
ニは焼夷弾と爆弾と両方。

かしが言うところ……さんの横手へ落したヤフは一トン爆  
弾かな。大きい穴がありましたわ。

それか、やはり六月十五日ですか。

六月十五日のその先は。

先も後もありますから。

・三月七日にもありました。

・そのときは山サシ焼夷弾。

・六月十五日やと思えますわ。それ。六月十五日に

スのとこへ大きな――

・八月はおまへんねん。砲兵工廠やあんなとことんどんやり  
よったけど。

をわび落つて穴がいっぱいあいてたと。その穴を何で埋めたかという  
のは、日本化学のガウ工全部持って行って積んでいて。僕が  
聞いたのは、その西淀中学をいけど、あそこには大きな穴があいて  
たというんですね。その穴の埋め方は、日本化学からわびわび持っ  
てきて埋めたという話。だから、こないだ西淀中学のあそこを掘っ  
てみよ、としたらあそこいっぱいあるとかや。この辺の淀高の埋  
ま地だとか何とかいうところにもそういつな人やったとか、いろん  
な話がないだ出て下人やけど、その辺は誰が知らん。

・大島橋から上に、川の向こうと、こっちは下うって――

・あ、ヤー一番多うおましたろう。

爆弾の穴が大分長い間そのままありましたやろ。いつころまであ  
りました。

・昭和二十三年ころまで。

穴そのままで、爆弾池がね。

・うん。

・僕もそんな人も思っています。それと何で埋めたか、本林さんは氣  
にしておんの。

・とこののは、とこの工場のタンカや何かんや積ってきこ  
理めなかったらあかんわけで、捨てるどころに困ってらやつてど  
んどん捨てていったらうと思んうんですわ。そのとき、硫酸だ  
とか何とか、めっちゃやっちゃったからや。その中に六価クロ

ムヤいもんか……

・それを気にしただしたら、大阪城の穴全部とないして埋めたが、その  
フジウ気になりだした。八千の集めたいに穴あいて人からぬ。そ  
れと全部平べつとうしたの、気にならぬ。何で埋めたんか。これは  
一つの大きな問題じゃ。

・戦争で工場が動かなくなるでしょう。そのころ大野川なんか、どうな  
りました。戦争直後。やっぱり少しはきれいになった。

・それからワタンタンはなくなりました。

戦争中はものすごいきれいになりましたが、明らかに、工場全部  
からなくなりましたから。

・戦後しばらくきれいやたですよ。水と浴びたりな人がしよ  
った。

・それからぼろぼろ人口がふえてきたり何やかんやして、川  
にゴミを捨てるようになったよ。――

正直にその川で水と浴びることができなくなったのはいつごろでしょうね。  
シエーンが戦後の後とか前とか。

・シエーンが口風の前からいから鬼な人達う。

・三十年ごろにはもう浴びてな人だように鬼いまんた。二十五  
六年くらいまでと違うかな。それからワタンタンと水が悪なっ  
て来た。

・何しろ堤防が切れて水が入ると、三年前くらいから、もう臭  
かたんじやから。

・ぼろぼろ臭なってきてました。

・あれが目についたとは、大が魚を見かけして飛び込んで、それを  
今度はもうよぼぼとかがどき入ん。魚が動かさる。下の方か  
ねコッとかスヤヤが。それに大が飛びつく。大が飛びついたら



とミヨへ行ったときも、カウチ小学校というのがあるけれど、あと  
二匹つて、ちよつと雨が降るとフナがっぱい運動場へ出てこ  
たりしてた。

じゃあ、とやほもうは人と最近のことですか。

最近の話でもとやほだけ変化が多いわけですよ。

まねてんがおこしゃつたのは何年ごろになるんでしょう。

四十年ごろやな。感じとしては、

何しろ終戦になつてからというものは、その川も工場が捨て  
る品物や、皮工場が赤いやつとどどど、パイプから流しよ  
つた人じゃあ、皮工場にやれも独断で行つた………これ  
たことも実際あるた。

日本皮草な。

うん。

日本皮草というのは、大森田ニ丁目ニッポ大阪工場を書いてるけど、こ  
のことでしょう。

うん。いま機械があつてにすめつとるけど、まだ機械がないと  
よ、パイプど大勢川にどんどん流しよつたんじゃけ。

その時分は新田帯皮という名と叫びつたんやな。

結局いま行つたら、その当時はなな人が知りませんとが何と  
か必平言うは平やねん。

帯皮の皮むいて皮のくねと、いまの大和田のオサムネイサの下

掘たら皮がようけ——にしたやつ出てきますから。

この辺は平野鉄工やけど、平野鉄工は違ひわけ。

平野鉄工は戦時時分に……

その平野鉄工は戦後は焼けたわけ。

焼けてない。



・そんな時分にはこんなところに家があまりなかった。

・沼はつかしや。松下から向こうに家な人があんな人も。

は人なら、戦争中の家並を教えて。

軒並みにあつたのは、一つは街道沿い。それとこの堤防  
とこまであつた。

(地図に印入れる)

・大体道に沿うてあうと建つとつた。

焼けたのはこういうのが焼けて、ここが残つた。それが今日のうちに  
ぼつぼつと工場が復興して来た様子と、空がどかないなとさせたが、  
川がどうなつたかという話。本々言うたらそれが一番聞きたい。

・八間道路からこつちは全部残つたというふうな人もやあ。

・八間道路の――全部家がやつた。

・堤防のまわに墓場があつたが、あの付近には、三軒家があつ  
た。あつたやつは、あつたやつ。

から向こうはなかつたわけですね。たとえば北村さんの  
近所は、こつちから家が並んでました。

・その何年言われると、ちよつと。

・豊山さんは。

・ちよつと阪神の線路のあたりで、うちのそばだけ焼けてね。

その付近はほとんど焼けてまへんねん。部分的に核素弾が  
落ちて消火が遅れて焼けた程度。とやから八間道路から  
こつち、向かふと右側は全部残つてるようになつて。

・シェーンム風のときになんか船で行つたやろ。

シエーン山脈のカーンマンサントヤ、護國やしんくたせい。

・シエーン山脈のときは大和は船で行きたけど、大和の方ど  
あふまけに船の方は開かん。

水はどのくらい来ました。

・終戦後二回、三回ありましたけどね、床上浸水が一回と、あと  
は置ちよつと上げたぐらいの程度。大和の方は深いんです。  
・シエーン山脈も三回かかりました。

シエーン山脈と第二室やど、もう一つ所ですやろ。

・第二室やどや。

第二室やど台風時代は大体オリオド打つと思っ人です。

・それは何年どころか。

第二室やど昭和三十四年か。

あゝ、とめくらにでもうはとんど終りぢんな。台風で被害

起った人は。

シエーン山脈は……

。昭和二十五年九月。

・あのときはひどいんです。

ニア辺で育ったが、生まれの人、おらん。決中さん、どこで生まれたん。

・私は昔の<sup>シヤビシ</sup>の五丁目、いまの<sup>ヤノヤ</sup>温泉のところに。

北村さんとする近所やんか。

・とうです。

・シエーン山脈はいつごろ家が建てたわけ。

・大伴ニにおれた人は防空壕かバラックで暮らしてましたやろ。

あゝ、暮らしてました。

行くところないもんな。

・淀川製鋼の住宅はしつと建てたんよ。

それ、リフビしたかな。

・終戦後。それ、忘れとったや。

温泉の隣の淀川製鋼の社宅があややろ。あれはいつごろ建った。そこら辺の淀鋼の社宅、いままで温かいっぱいや。こゝろやろ。あれはいつごろ建ったんやろ。

・そん人も人四十年過ぎたから、こゝろ、あやろ。

・淀鋼の社宅、ほとんど木造でしょう。そやから最近やないで、終戦の七、八年くらい。

三十年になたら鉄の助になる。

・そうぞんやん。

・こゝろ角は二十七八年から三十年にかけ、建った家やね。

・大体木造とやっころから、らしいぞんや。

・何しろ空いた土地いうたら、いま淀川製鋼が、あれが大半買

い占め。地主が借り上げられて大破つくつとるんじや。大体

見通しがきかないようになつたとは終戦五、六年。

・ジェーン台風が二十五年、第二室戸が三十四年か五年かですから、そこらあたり境目に考えこもろうたらええんですかね。川がメタンがスホコボコチャウのは大体室戸台風の前なのや。

・昭和三十九年に西淀川にちよつと間住人どたんですけど、どめとさは汚いなと鬼うたですや。大分と汚いですけどや。

・川で泳いだとあつしやから、泳げなくなつたのはいつごろ。

・こゝろのとこで泳いでました。

・終戦後も泳いでた。

・上の方じゃ泳いでた。

・帯皮より上は泳いでた。とっから下は終戦後でもあかなかつた。

・帯皮のこつち側でも泳げんやうになつたのはいつごろでしょうや。

昭和二十五年、六年ごろ、まだ泳いでた。

・ 神崎川では終戦後泳いだことあるけど。

神崎川は泳げますわね。

淀川も泳げなくなるというのほ。

・ 三十一年か、二年ごろ。

・ 公室がやかましゅう言っようになっからす。この泳がめんこと  
になつたのほ。

そんなら、四十四年ぐんらいつ？

シジミが何かとめましたせう。とれるけど念ぐらめさせんわね。

・ いまでもシジミとれる。臭いやろ。

潮が引いたら油のにおいしませんか。

・ いまでも重油の <sup>か</sup>がしま。ホラ釣ったたり臭うおますわ。

・ ススキ釣ったら、洗いにしたりにおめん。煮いたらにおう。

・ ホラとか貝が臭いというのほ、いつごろからそうなたかわかりません  
びすかな。

これは福町方面へ行たらわかる。福島、大野の漁師に聞  
いたらわかります。

まようは <sup>る原産地</sup> 行ったたー、やはり労働者が多い。だから、古くか  
らの会社の問題が出てくると……

・ そうか。煙突からホコホコ煙出るのほ、いつごろやいう話してもらわ  
ないかな。

・ たとえば、北村さんなんか大阪製鋼、初めからおるんやろ。

・ おろければ、めしが動めた間は、マイルにはさんで残して、あんで  
それ見たらわかるけれども、何年やたいうこと、それともころ

かな

ファイルにじこありますのん。

・残さる、残ってる。

・どくなもん残ってます。

・自分が働いて給料もろうたとか、どくなもん、ファイルにはナ  
ンどあるかな。わしが役になったときは、こんな役になつてこ  
うやいうことな。

北村さんは宮大工やろ。

・家大工いっして、人間が住む家建てて、木造や。

それと大阪製鋼の中で建て……

・違う違う。そのときはもう大阪製鋼に籍を入れて、いうたら  
工員で木工として入ったわけや。九年三カ月は向こうに籍を  
置いて工員になつた。それまじには紐か、う行つたわけ

けです。大阪製鋼がでさるときから、大根畑の時から——  
したわけですな。

・大阪製鋼、小さいとこでやってやっせん。家の隣に納庫かたい  
なん建てた。一番初め、木でやってんやん。

—— した時合から平うつと行つて、高炉は私の親がやっ  
わけでんや。

じゃ、大阪製鋼、一番初めにやったときの高炉というのは北村さんがつく  
ったんか。

・どんなふうになるやな。えらい悪いもんづくりよった。

大阪製鋼については北村さんやけど、日本化学については大塚さんやわ。  
何年ぐらいいから。

・一人行って、やめましたよつてな。

一番初め、何年や。

・何しろ日給が五十二銭か五十五銭。

二つの話ですが。

・戦前じゃ。

いつごろの戦前でしょう。

・大正の初め……終わりぐらいが。

お名前が、何とおっしゃいました。

・大塚。三十三年生まれ。

三十三年いうたら、きつちり一九〇〇年が、八十歳ですね。

・わづら学校いうたら、この学校と違いました。わづらが三年に  
なだときくにこっちの学校建ったんです。それまでは、向うにお  
まや何やよけいおましたんや。いま区役所おたいになつてま  
すけど、役場、役場言うてた。そこに小さい学校がおまん  
ねん。そこへかてら三年まで通うてました。朝行く者と暮

行く者とおました。三年になだときくにこっちへ変わった。

大塚さんの時代やたら四年制でしょう。小学校もう六年制になつて  
ますか。

・六年。

高等小学校入んて。

・高等は行かれません。

・シラカネへ行ったときは日給三十八銭で入りましたん。その時へんに  
五銭上がるど喜んでましたんじ。

そのときどこへ勤めてたんですか。

・そのときは日本重曹。

日本重曹というのは広かったですか。大きな工場？

・大分大きかったです。あそこへ行ったのが大正七年かな。六年か

七年。ちやうど十八、九。

検査前やな。

・その時分口口給三十八銭でした。

・どんな仕事とそれとったんですか。

・初め行ったときは硫酸のビン洗いましたん。かめかたいなん

それをきれいに洗いますん。

何で洗うんですか。

・水で。

それは手で洗ったんで……

・ただまいとくだけ。手は入らへん。水入れこかきまぜて……

その洗うたものはどうしたんですか。

・それをまた水とさちんと切ってから硫酸入れますんや。

洗った水は。

・その辺が……

・下水に流す。

・やっぱリニの川——流れてるかおまへんやな。その時分やって。

大勢の人がやっと思ったんですか。

・ピンは石い着はっやし五、六人寄って洗うてました。毎日。

一日にどのくらいの時分仕事してました。

・その時分に七時から五時までか。

途中で休憩が一時間ぐらい。

・休憩は、どんな仕事は、してもたら後は遊んでましたん。す

すべこととしてたら、何にも余命のことせえしまへん。

一日に何本ぐらい洗うてったんですか。

・三人寄って百回、五十かな。

ピンいうたら大抵何弁ちやうんかな。

・めぢは「半鐘」入りやあや。

(不意) 目方にしたら三貫目ほどおましたな。空ど。入れんが百ポンド入れまんやや。十二貫か、入れまんやん。濃硫酸十二貫入れまんやん。薄いや、ちやたら少のおましたな。入らしまへん。

十二貫ものもの入れて、手どゆすつて……

・ええ、ゆすつて向こうへやるわけですな。

・こんなロイヤ、陰はまたないけども。(コンの陰もかん) に手どつてや。

見たことあるんではが。

・いまでもちよこてんかこと道路にほったあや。

そればピンヤンたわけ。

・瀬戸物のかやや。

中身ばいっばい入って十二貫やや。

・ピンと両方ヤンたら重サ十五貫おましたな。

とやば足もとばすではが。

・その時は長靴なんとおまへんか。足袋はいこ……

地下足袋かな。

・地下足袋はかしまへん。せつたはいこまんねん。

やな。

・かかたらあままへん。

かかたらホロボロになるやう。

・かかたら一遍ど。

手どつてもひすびく悪くなるやう。

・手どももう……ラシヤのキヤ持つてやりまんねん。ラシヤは強ひますわかいな。ラシヤのキヤヤンたら、手つかしまへんな。



ベンが割れるとキノがおりますかいた。こう回していきなす  
やう。そのときに割れるとキノがおります。割れたら、けがしますわ  
けがした人、大勢がおります。

・ウチらもここにまでがううと  
とよときはこん  
なつばに小便が入ってましたな。その小便の中へ突っ込まし  
たんや。水かけたもんはあきらまへん。小便の中が一番ぶろしい  
じ。

早うほり込まなあきらまへんた。

・アンモニアおましたぞな。セッコウで塗る者もおましたな。  
セッコウ塗る者は二週間ほど休めました。私、明るる日仕事  
に行きました。小便塗ったとこ。

それは会社がちやんと小便樽も設備した。

・いや、それは会社がセエでも、あれわれが守って、これええな  
又鬼うてなにしてただけ。友達同士がここに小便しとけ  
よいうためといて。会社がそんなもん設備してくれよらへ  
んが。そんな場合は、一医務室みたいなもん、そんな古い会  
社あきらまへん。

捨てた場所というのは、下水のところで捨てて口を挿っていくわけ。

・下水の横、ちよに流しみたいなえいとこで流うと、排水は  
どこかと、大野川に流しとった鬼いましたな。

大塚さん、大野川に沿って下の方にいま古川鋼業あるぞしやう。

・あめはもとアルカリいうと、アルカリ会社や。

日本重曹は結局つがれたが、いまはなくなっことまっことぞしやう。

戦争時分

そのときにもと前から大阪アルカリとは何か関係なかつたんかな。  
もう早うにつがめましたよつことな。

日本重曹が？

ええ。

日本重曹と十川が行ったり来たりはしてなかった。

・そんなにしてへん。それは来やしまへんだった。

だから、何やってるかちやうどは、その時点であんまりわからんかったんやな。大きさがら言うたら、どっちが大きかった。日本重曹と大阪マルカリと。

日本重曹はあちこちに会社がよっけおきました。

(テープ取換)

(工場の広さや地図上で確認する。)

空気が汚いなと感じ始めたのはいつごろから。においでもいいですわ。

(資料) においが強かったとはもう早かったもんな。やれ、大体日本化学に志願に行ったところが、あんまり自入いもんやけ、シツホをいって逃げたんじゃから。

何年ごろ。

除隊前や。軍隊おるときに飯志願しよるときじゃから、昭

和十七、八年ぐらい。

吉村さんは西淀川へ来て最初は タカシマツ

・いまの佃の ハタチカ 鉄工。

・日本化学の名前になっしてから日本化学へ来たんやろ。その前は伊藤重曹やぞ。そのもう一つ前には……

・伊藤重曹の方がえやぞ。

・伊藤重曹、福重曹、とれから日本化学。名と別三つ変わるとんねん。

大阪アルカリでも皆名前を変えてやる。逆反してとめられたんで名前を変えて……

企業の方じゃやる人は皆一人やけれども、名前を変えてずと續いてきた。

日本化学がやっぱり一番臭かったわけ。ひどかったわけ。

自太いのには近通ったら日本皮革が一番臭いんですよ。まあ硫酸のも臭いけど。

皮革が一番臭いやろな。叩くと臭い水が流れるやろ。

とりや臭いんですよ。何とも言えん。

……一番被害を受けこんのがいまの日本化学。伊藤重曹は高かったからええけど、日本化学になつてから……

きついな。

日本化学になつてから、<sup>エンシツ</sup>つぶしてまいよった。

伊藤重曹のときは煙突高かったん。

いや、<sup>エンシツ</sup>いうて、高い建物が建つてまんねん。硫酸つくる

のに中で鉛がガスをとめるようになったよまんねん。鉛の煙

び硫酸……

<sup>エンシツ</sup>いらのは煙突とは違うわけ。

違います。建物が違います。

硫酸のつくり方が違つてくるわけ。

建物の中にまた鉛の板を張つてごんな。そこへためこんだか何をしとんのやろな。

そこへ鉛石のガスが入りよるやろ。硝酸のなにとまぜて煙が入つていけんねん。それが固まって硫酸になる。

伊藤重曹のときは建物は高うおましたわ。日本化学になつたから、機械がどんなになつたか知らんけども、建物が低うおます。

いま、ソーダばっかしや。

日本重曹で働いた方はおらぬんぞろが。大塚さんは。

・初め日本重曹にいらしてん。

変わったんぞろか。

・伊藤重曹へ。

それが福重曹に変わったわけや。福重曹のときもおらぬたわけ。

いらしてん。

日本重曹へは山内とまおつて、全然別の会社の伊藤重曹へ行った。日本重曹がつぶれたから、とっちへ行ったんやわ。

・日本化学が買入ったんだ、しゃるな。買入ったんか、どないか知り

まへんけどな、日本化学になつてまんやん。

日本重曹がつぶれた後、すぐニッサン 会社にたつてらんよな。

・この人は大和団にハヤタカ 組いう組があつて、とっから行つた

さかい、会社は直接は——ないわけ。ハヤタカ は両方ともかけも

ちしてたわけや。さかいに、こつち行つたりあつち行つたりして

わけや。これが話の順序。

・この人は合同製鉄の中にもハヤタカ 組おるやう。いま大阪製

鋼。

大阪製鋼へはハヤタカ 入つてへん。

いまもハヤタカ 組ちやうや、あるんぞろが。

いまもハヤタカ 組あつてても、いやしまへん。とやない、今

金がこもらぬしまへん。

給料はハヤタカ 組からもろつたわけ。

給料は、日本重曹へ、ピラッん は会社でもううてましたけど、その日本重曹がつぶれた人は、ワフですか。

つぶれたん、知りまへんかな。

何年ぐらいまでそこにおったんですか。

三年ほどいましたやろな。

徴兵検査の後もいましたか。

検査時分は、もう商売してたやな。

商売何しとられました。

ああもんはかり。畑入ったり……

八百屋。

へえ。

日本化学はかなり臭かった。ほかに、たとえば煙突からもうもうと煙出たようなところば、じんなどこがあつた？

硫酸のにおいは、ここあたりにおつても、ラサ工業や、あれが

風の、——こっちにもやっぱり臭かったですよ。川の向こう

やからね。

こっちら見て、煙をばあつと出してるようなところはどこがあつた。

……とらやっぱり日本化学が一番ですよ。

……が、見えへんやん。

(三村) ・・・また年代がさきへ行くけれども、大演習のとき、夜中にここへテント張ったんですよ。いまで言うたら、松下電器の辺の畑やつたや。夜中にけんなが目も口もあかんようになった。こしもうた。これは毒がスカいうこと……

の積流れとったドブ川にけんなはより込んだんよ。ドブ川ちゃうてもきれいかつたけれども。夜の夜中に臭うて、とんで逃げたことある。

・何や鉦石くべるとも、一番白大うおますやな。

(三郎) どのとき、少社とか申殿がいなかったから、下土官の命令で自由行動とたと思うてから……かしなにかいまでも忘れやせんや。回道の向こうの方に神社の横の方に大きな米倉があつた。そこに並ばせこんばん打たぬて、しまいに打つとに手が痛いやろ。どのころは百姓はもうりはいとったんやな。どのどつりどつり度にはやらぬて、しまいに汗かいたり、しめて痛かりやうた。そういつ印象が残りたる。その付近まで、取うつと上まで白大かつたや。

ツーンと鼻どつくようなにおいですが。

うん。とりやな、日は涙が出るんよ。今夜は口から吸うたらどうもこうもたらぬが、タオルこうしてもってこれから逃げたんじゃ。明るる日、寛兵衛が果とつて、どうのこうのと言っけな——

・それ、この福重曹の事件じゃな。

・ああ、先ほど言われただや。

・だから、こういう被害は連日連夜煙が出るというんじゃなしに、知らなく……

鉦石くべるとも、ただけ。

・多人さうどしやうな。

・それと風向きとかど来るんじやうな。

・鉦石くべとつたところ、ごらんになつてますか。

・あなた鉦石くべたことはないの。

・くべこま、くべるときはもう白大うこしようがおまへん、大概

初めこの者は口、鼻——タオルでくっくくべまんねん。石くべると

とき一番白大うおますやな。それ出すときは、もう何ともしやん

まへんや。固まっても、硬いなんこまんねんで。こんな長いポー

だがおまんねんな。そめを其六八寄って使ったんど、  
出しまんねん。石くべるとこから。

神女たいなんにくべるとこが。

かま。かま又口は、こっからこくくらの幅だんな。真行は  
長うおます。何し、スコップで掘って、よっぽどカ入れた、向  
こつまでさたらうしまへんよこな。

石炭が何かでくべるわけ。

・その石をたくのは、コークスか何かでたまよったやろ。

・いやもう石はつかし。

・そんだけで火がつかぬ。

・一人つけたら、上へ上へくべこいきまんねん。

・一番初めだけ火をいこしといこ。あとはその上へ上へくべて、下  
は出しよったわけやな。

・火を落としたらあかんわけや。

・火落としてもたら、つけしなには、もう焚きもんはっかりくべま  
んねん。そめから炭をまた入れまんねん。

・色はちやうど鉄鋼石女たいな色しとります。

・青いのに銀々ような……

・ちやうどこびりしんらの大サナナだね。

・スコップはうたら、大きいスコップが。

ちやうど機関車に石炭くべるとな調子で……

・シャベルはうやつやろ。

・スコップ。

そめは一日中そめとくべるとんわけ。

・いや、一遍キレう晩の三時にくべまっしやる。後、明くる日の  
晩の三時にくべまんわん。一昼夜、二十四時間だんな。それ  
くべといたら、明くる日までとめかまはくべしまへん。田十なら  
田十、かまがおまんわん。それ昼と晩とでくべまんわん。一  
遍に田十が五本をつくべとけんまんわん。

・あ、くべとつたわけじゃないんですな。  
日に一回とくべはんせん  
それか燃える期間とソウのが大体一回で平とやる、ちやうこととすめな  
それとまた、ぶっ込らわけやぬ。

ええ。  
かまどは、一遍つくったやつは、つくり直すソウことはしてないんですか。  
一回くべと、何ぼとれまんぬやろかな。  
とめかまは、壊してしまいうぬ。

かま、おうと長うにやっこまんわんや。  
何回やしたら、かま、ぶっ壊してまたつくるとソウことじゃなくて……  
かまの寿命は何年か。

・何ぼもちまっしやるな。しき変えまっせ。  
とんだにしきに交えますの。  
・レンガ——ぶ積んどまっしやる。  
あ、レンガがぬ。

・レンガがぬかま、おとと修繕しよるやろ。一週間に一遍ぐら  
い修繕しよるが。  
・しよんのは、一回しよたらもうしよらへんな。  
・一年に一遍ぐらにか。

・そないもたへん、もたへん。ぐんりかレンガやもん、そない  
もたへん。一カ月に一遍ぐらにはや、ぼりか修繕しよるの



やる。

・穴があいたところは……

そういうかまどをこしらえるときには、何かチヤムと設計してこしらえる専門家がいた人がいたわけですが。

・それは会社は会社で設計して、これにセエというたら、レンが屋が積りよるわけですが。

いつも同じやつこのもん、できたわけですか。

・大体は セエ という型があって、その型を突っ込んで、それでレンがまいいいよるわけですが。

とうすも、ぶたうめにつくつとるわけやないんですな。

(トコ) その日本化学ではいまどうか知らんけど、私なんか入社しようかというところは、原料は大抵はガスからウヨーチンができた。第一回くぶるやる。くべたら、下の方にはコーク

スが入るわけや。その上へ乗せてなにしたやつは、今度は

冷却装置に行くわけ。その臭いにおいずるときは、その

くべるところからと、下から空気が入るところからブーッと

出たやつ。冷却装置に入っしもうたら、あんまり外には出

んわけですわ。冷却装置に火をくべた空気をかき出して、

またほかのガスと混ぜるわけ。とうすると粉末ができるん

です。そのかまどあけたときが、またものすいにおいずる。

冷却して落として硫酸とるわけ。それがまた残りは煙突から出て

くるわけでしょう。

・その粉になったところの隣のところに煙突がある。その部

屋の中の空気を全部煙突に送ると。

・石がとけまっしやる。石をくべるとける前が臭いんです。そ

のときにスイッチひねって、ファンが排気しよるわけですわな。そ

めが煙突に出てくるとは、白大いわけやな。

年がら年じゃう日本化学が臭かたというよりも、ときにひどいにおいがこらとこらと籠ったといふことにはなるんですが。

・それは石炭くぐったときになにが……とめを怒出したらいか  
人の人で、夜の八時から白こらにファンだけで出しよるわけ  
です。人、眠る時分に。

・自分たちが作業せなかんから、ファンかけるわけですか。  
4人を寝るときにワーツと来るわけやな。

・寝られんな思うて外へ出たときに、臭いなアいらぬがそれだ  
んわん。ん会社、その手でいきよんせん。

と毎晩ですか。

・じょうべつたりはやれしまへん。また保健所からとか検査が  
出るようなときは、とめよりますわいな。白こらはちゃんとは

とるもん。

・ここの住宅でも、恐らく二階か四階以上の人が臭もできん  
ようなときがあるやろと思うんです。わしの家なんかでも、フ  
トンがぶっして、ごっつうするもん。

・換気扇回したら入ってくる。ペラングあけたら、大体五時から  
六時ごろになつたら。

いまでも？

・いまでも。

・現在の状況やな、八時から過ぎには必ずとめがあるはわや。  
・いまの自動車道路向いこ区役所か銀行へ行つて帰ってくる  
だけどのど痛くてたまらんのよ。ちやうどいま姫島あめとこ  
の高速かけたいな道路ができたどしよ。あそこの下ぐらから  
ものオシロイや。におい強いや。お父さんに聞いたたら、昔製鉄



・それでも何で言うやっちはげるようなものが……

・「よし」と話を戻して、戦後のことなんだけれども、家が焼けたのに焼けた戦後だんだん復興してきた。ベトナムとこういうのができてるのはいつごろから。田んぼなんかほとんどなくなっちゃって。

・それはいま言おうたように、二十七年から三十二、三三年くらいまでは全部埋まったという先ほどのおれが出たわけなんです。淀川製鋼なんか立ち込んできた社宅や、あのバラックが建ったころには大塚埋まったという人ばかり、あの年代を調べたら、出る。

ただ不村さんのお父ちゃん、いま野球やってるけど、お父ちゃんが帰ってくる時、もつとおもしろいのがあるのや。お父ちゃんがちやうど学校へ行くところ、自転車での辺の新聞配達やってた。そのころは後野倉の家がぼつんぼつんしかなくて、どこがど人だけの爆弾跡でどうや、たかいうのは全部知ってるんよ。ちやうどいままだピッチャーやってるん。

・やっころん違うかな。

・終わったら一回こっち来て言うてくれる。

・おばあさんたちの代からやたら、もう五十年から姫島に住んてるからぬ。一つも家動いてない。堤防のすぐ下やからぬ。  
・その人は終戦の後の荒れ地から、ちやうどそのころのことと一番よろしくこますや。

・終戦直後から昭和二十七年ぐらいまでの間、工場はあんまりやっこないですゆな。家もそんなに建ってない。田んぼは焼いてやっとなったわけですが。

・それが、ここにいる百姓やっころん人やたらおんがかるわけ。たとえば中島に住んでる人が出来島の一帯へ百姓全部来たとか、空地へ向けて、ちやうど空があったら全部やっころんけど、キヤウここにいる人は……。  
戦後この辺は畑や田んぼやっころんところあったところあった？

・その時分はもうあらしまへんやろな。

にや、あたと思ひますやん。普通通空したら畑にして、菜っぱ植えたとか。百姓やないけめども、道まで耕しましたからな。

・――の橋の方は畑やった。カヌサッコウヤ、ジカ、セイサン、工場の北側の

方の、いま三ノ用になったとこ、あこは畑やった。

思ひ出したたいたたらええけども、道も学校の運動場も畑になった。

・いまうちな人が住宅が建つちよろうが。あの住宅のともも畑やった。

・西淀中島の真北側の公園になつとるあこも、公園ができるまではレンコン畑やった。

・レンコン畑やぞ。ニノタ所、レンコン畑や、

・うん、レンコン畑。

・うちのとこもそれ。とろ沼でレンコンいっぱい植めたとこ――

・登記所の地図を拜とてたら、ようわかへんじやけどな。

・そんなもん貸しよらへん。

・閲覧はナしてくれる。そやけど閲覧一々やつたら大い愛や。

・二十年から二十七年は大体せんあつたやけ。

昭和二十年やろ。皆おつたやな。

・けんながあつたけど、大抵あそこ畑があつたとかどうやというやほ、なかなかわかん。

・決まらぬ畑はないやん。空地があつたら、けんなが勝手にやつてた。

・地主が誰かが問題や。

・焼け跡も全部畑にしこしもうたんやろ。

・そうや。

・勝手にしたもんや。オカたつて畑いうて、なかつた。各自で空いた

所に掘って小屋建てるはやってたから。本職の畑としてはな  
いわけや。

・そういうことやがな。

たとえば松下とか、<sup>と前にも</sup>工場があつたのかもしねんけども、家が建つ  
よりも<sup>と前にも</sup>工場の方が先に来なかつた？

・そうら工場が先、建つとんねん。

戦後でも工場が先にできて、その周りに家ができてきたよな過程  
じゃなかつたですか。

・むしろ人がでもあつてこへ——かびきたとすれば、いま松下電器

のあつたところへ、<sup>と前にも</sup>三角井たいたところがあつたよ、<sup>と前にも</sup>こへ  
家をつくらうや。おい、夜中につくたら、ちからんぞ。夜中に  
一遍にできてしまはんや。

後、知らん、いって。

・万博の時は建てました人と違ひますか。松下。

・松下の<sup>と前にも</sup>所、何だつたの。あんなないところ。

<sup>と前にも</sup>は古くからあつたんやろ。

・あれは違ひます。野里に<sup>と前にも</sup>つてあつたわけ。それがあ

こへ移して来たわけ。そやから<sup>と前にも</sup>の方が浅いように思  
ひます。

・あの辺はオサメという鉄工所が一カ所あつただけで、あとは全  
部沼やたいたとこ。

・ヨシがまうってと——

・あつた<sup>と前にも</sup>に<sup>と前にも</sup>。いまでも公営で暮し入らう

てな、宿をとるけど。公営の会へ入れとめしは勧めんけ

いも、自分では<sup>と前にも</sup>。工場やるとるに、自分が公営出すも

んやから、公営者の会には結局入らんて言うんじゃあ。

いまのバッテリーセンターあるやう。あとこにあっただけやから、  
何こいつ工場があった。

オサメ。

あとこにあっから、おう、とこちまで何にもなかったわけ。

沼。

と沼はとこら辺に。沼はいつごろ埋まります。

いまの日本化学から、こち側の淀川の堤防までの間。

と沼はレンコン、とやますや。

レンコンはここの橋げたぐるりはとやめました。レンコン畑で

した。

レンコンはこつらまでとやました。

こまの田十三の稲刈のササチの、あちの方はずっとレンコン畑でした。

こつらまでとやました。

・ハス畑や、とやがな。

レンコンは <sup>稲刈</sup> <sup>後</sup> もとれたましたか。

・ <sup>稲刈</sup> <sup>後</sup> もとれたように思っています。

・ ここの堤防が切れたやう。あちからレンコン畑はなに。

・ ここの水ださるまでは。潮水が入ってから、もうレンコン畑は……。

・ ハス畑や、最近や、最近や。

・ 最近や、最近や。

・ ハス畑や。

・ おれが畑になるときに、ハス畑。

・ おれが畑になるときに、ハス畑。

・ ハス畑や。

・ おれが畑になるときに、ハス畑。

・ おれが畑になるときに、ハス畑。

にレンコン畑があった。戦後もそんな様子だったの。

・戦後モヤッぱりとした様子だった。

だから、二十年から二十七、八年ぐらいまでそういう状況。

・それから一部には沼や田んぼのところも合めて残ったわけですが。

・沼とあめば爆弾池もあるからな。とちやとちやあからん。

・先生たちもご存じのとおり、新田、切符張ったでしょうが。

あれから、地主が切り売りすることになったんよ。晩に、

自分のいるだけの家とそこへ建こつと、これだけと分けてくれ

というような方法でやった人、わしは知つとつども二、三人ある。

農地法が何年にこゝと全部撤廃したか、そこがわからんねん。

まあ、農地法をもう撤廃した人ねん。それで、御幣島の

方に、こゝの姫島の人なんかは農業者会の話し合いに行かへつ

たは平や。撤廃処理の。

こゝの歴史ということになると、稚島の小学校百年やろ。こゝにいた百年祭やろたやろ。

うん。

その資料というのがあるな。

恐らく小学校百年記念で……

小学校にはあるやろうかな。

・土井さん、百年祭をやったときの実行委員やろ。だから、土井さんが持つてるや。

・どの程度の資料があるんですか。

・近所の写真もたくさんあつたりするんですけどね。ただ、吾の人というのは風景とらんばしよ。まぐ人物とるんですけど。

・土井さんの絵の先生は、あつちやこつちや風景かいと持つてる  
い。



あの先生は風景がいこるけど、それは大野川の端の端のドブ川時代の絵とかいします。

うん、そうじゃ。

・小学校の生徒らが、この辺の風景を写生してたらおもしろいぞよけとね。景色が順番にころと変わってくるんだぞよ。

・小学校の絵の先生で、姪島でいまあれやっころのがいる。その先生、ドブが好きなんやね。ドブについて、毒が生えるような汚いようなとこばかり選んで絵をかいてるわけやけど、それを毒とていまして、と、昔というたうも、アサギウサ達うのがありますや。あそこへ行くと、この引張りに出したら、出てくる。

・何ていう先生。

・うーんと、何というんだかたかな

・エ井さんのお師匠さんやから、聞いたらわかる。スケッチは持っころはると思うんです。

・いまでこそ大抵みんな写真機持っころけど、いまから三十一年前の写真機というたら、手が届かなかった。

写っころのは人ばかりや。

・空がど人よりと曇っころ汚くなったと感じ始めたのはいつごろ。昭和三十年ごろから？

・大体空が昭和二十年、戦争の真っ際には見えたと思うんです。

・とら、見えたぞよ。

・いつから見えなくなれたか、ちよっと……

・そんなもん聞かれる思うてへんし、こっちもうかうか……

下とえば洗濯物が汚れるとか、そう、いのはいつごろからぞよか。  
洗濯物いうたら、日本化学の橋の方にアパートをたいた  
家が建っころあね。いま緑地公園に入っころとこころの並びだ

けは、人が入っても二、三ヵ月しかおらん。若い人なんか、安ん  
からと思つて、とりあへず狭い部屋でがまんしようと思つて  
るわ。おしめを昼に外に干しとるわけ。何枚か入るも子然  
か泣くいうわけや。もう、ただれこしまう。

あれば日本化学の東京やろ。

ヤマシタ 化学の住宅や。

・人なんか半分しか入、とらへんやろが。そこに入つとる人なんか  
に勧誘に行つた。また大阪市にまだ籍をなおしとらん人は  
、りやもん。

・又の辺一帯やろうと思つたら、あれば日本化学のせいなか。  
この煉塙のせいが、ようわからんの人だけけど、又の問取うと植樹して  
まことわけやけど、又の一角だけ全然緑が育つてないんですわ。ちやう  
ど日本化学の横と、の問だけ。

・緑地帯が通つてくるからや。

・又の緑地帯の中の二百メートルぐらいの間は、このぐらゐの高さのやつ  
がキューツと低くなつてきたとる。もうどう状況は一帯にありまわ。  
・大阪市のやることもおもしろい。昼植をかえたら、近辺の人  
にちやんとあかるやろ。それを晩にやるんじや。トラックで  
入れこまて、晩にバツバツと植えかて帰るぬん。おしは  
一遍写真とろうとしたとこが、やがましいこととらつたけん  
やめたけどな。

・日本化学の横手に、製鋼、おまんややろ。

・又の製鋼隣でやつとるやないか。の工場や。

・又のふーんと白い煙出がやろ。

・いま一番なには日本化学と、とか何とか……

・堆島に左範囲にやたつて被害を与えたのは、古くから言うたら日本

化学だけ？

・被害を与えるのは大阪製銅とか中山、あこらの煙。日本化学のやつが姫島へは一番まっついかね。

・それと、イナガ イナガ それから大倉の橋の通船の クヌエト、ハマは

ああいう集塵機をつけてるけど、所、つけてらんぞ。

だけど日本化学の与える率は桁違いやろ。イナガ イナガ や クヌエト ぶり。

・それは桁が違つう。

・橋のさわの クヌエト 工業所いふとこだつしやろ。

・あれは上から灰のこと、降、こきよつた。

・何が灰塵かたいたんだね。

・あれでも十分に公害も公害。あれ吸うとね、あんた、目まいてしまつていや。

降、こくるちやうのはどうにうことですか。

・上に三角の煙突を一つ、とる人ですか。下で鉛を出すで

しやう。出したときにも、あれが、鉛のついた物体が、鉛と散るんのですわ。

あつたらこの範囲に落ちこくるんのですか。

・あれは上がる場合には、やっぱりセ、ハサメートル煙突から上がらな。この横へ行つておなすい。あんた、風の強い日は遠くまで行きよる。

・煙突と違つうのやろ。昔百姓やら使つた、こんなじやうにしたら、あれやろ。

・どうさう、三角に。

・あれしとると、は、どこでも、悪いやい。

いぢめる灰が、溶、こ、こくるわけですが、

・灰が飛んぶくるんのですわ。

・ファンビークとふかしよるさかい、上へ舞うて……。

不や紙を燃やしたりしたような灰なのか。それとも、はい塵って、もつと赤茶けたやつが落ちてくるとこもあるんよな。大野なんかいうと不吉、赤茶けたサビけたいなやつが降ってくるという感じなんだけど、そういうのはなくなると、いやゆる灰色……

・あれの原料は、バッテリーなんかに入るとる鉛やな。それとアラスチックやらウエホサイト、あめいのが一緒にカス上がる。それは洗濯物汚すとか、そういうことあると思うんだけど、吸うとかなり鼻にくるとか、のどが痛くなるとか、そういうものなんですけど、  
・のどが痛くなるってこの強さじゃない。先きよったらくしゃみばっかりするんじや。それでは、その クスマット は  
・二、三回自分で集塵装置をつくったけどな。

鉛が本者にそのままだとありてくると、鉛中毒になりますからな。それはいどいどすやな。  
・上がったも近くに落ちるとは、また鉛分がついとる証拠やねん。重たいから。

・遠くに落ちるやつは鉛分がつかいとらん。  
テライコンパニラ  
普通 の 鉛としは……工業界の範囲内なら、

不果ならそういう製品になるようなものは全部中へ置いとくわけやな。

・ クスマット  
社長は、あんたたちが公害の方をやかましゅうまうから、  
うから自分でこいついつぶつにしましたと保健所まで顔出し  
てなにしようか、かまのところで仕事をする者が  
熱くないようにアースとやるから、上の方に澄いとる。

もう一回来るけども、二十年から二十七年ぐらいに福の方、夏とまに、工場は建物はどこあった。日本化学と……。

・古川鋼業、帝國化工、それからまたここ、チニア精練、やとか  
日産化学という大和川のその処埋場のところ、それから帯  
皮、等々及ばずような大きなところはそんなもんじんな。佃  
行、たらどうか知りまへんけど。

(地図に場所をマークする)

・それ以外にその周りに人家はどのくらいあるんですか。  
・人家は焼けてしまつて……

・なりこもやわ。じゃ、まあ工場ができたというふうに見えるかいやね。  
・工場はどのくらいありましたやろ。

・ミニムはどのくらいあった。

・その時分は公営ということも皆マヤ想してないから、建てるゆる  
範囲の家建てますやな。こういう結果になるともわからん  
から。

大阪製鋼な人が、ここから見たら見えんか、たんですが。

・ここから見たら見えしまへん。日本化学でもちよつと見えに  
くまじや、ミニムから見たら。

・山形油脂が見えるやろ、ここから。

山形油脂というのは昔からあつたやけ。

・あれは古い。山形石鹼やろ。

ロックポイントというは最近。

・あれは終戦後、小ぢい掘つてと小屋たいたんでやつて、  
だんだん大きくなっていった。

ロックだつて近所には大人を悪いことしたやろ。

あゝ悪い、悪い。

とこにある。ノムラメツキ。ハウのほりつじろからでました。

・あれも終戦後やな。

・これも歴史古いぞ。野里に本社がある。ここは支社やけど、  
二つ、せ。

これも戦後、すべつ。

・あろん戦後やな。

あんだこの八百屋もすまるときに、あれ何年からやりだした。

・あやとほはまだなかつた。マツカ。がとこにハ屋建つとつて、マツ

シツ。ハウ入つて売つてくれとせうて、三百円で買つたやつを

坪八千円で売りよつてん。百坪ほど。

いまのころ入、おつちさん、何年に来た。

・あし、それが覚えられんねん。

八百屋さんをやりにかけたのがいつごろか、あからんやけ。戦争より後

やな。

・後、後、おつと後。

子供が生まれたころから見ると、あからやろ。いまの子は何ぼ。

・何年ぐらいになんのかな。全然覚えられんや。

・いま子供、カシラは何ぼや。

・いま五十や。

孫が生まれたときは、もうあまこの店やった。

・それはまだやあな。五十の息子いうたら、孫くらい。とんなもんまだ

孫でさへんや。

・ヤッほり三十年になるな。

あまこへ行つて、三十年。

・ノムラ。がびきと二十年ぐらになるやな。

終戦後やな。二十五、六年。あまの辺がたあつと家が建ちだしたと同

時にノハラもできたというところやね。  
とやとや。

こういう工場が家々建つと叫びあつたという状況やね。

・オヤマ  
鉄工はそのころあつたんですか。

・あめは古い工場だね。いまのちやうど阪神電車のかかりの  
とこにありましてん。小学生時代からありましたら、終戦  
前からある。

又んたやうたら、昭和十三、三年やな。

その横の方に現在の東洋光熱ちやうやうがある。

四十三号線は二十七年ごろできたんがな。

・阪神電車より四十三号線の方が早い。

・阪神電車の方が早い。

・福の伝法線はワッシャる。伝法線は大分前。

伝法線は戦前からできたん違う？

・戦前でもあう、と古い。回覧島まで行ってましてん。

・西九条まで行くのは新しい。

・伝法橋のまわり行つたら、できた日書いてある。橋のところに。

・淀川通ってたんですか。

・橋も渡ってた。

・出来島から向こうへは行ってなかった。

・行つとった。尼崎まで。

・尼崎から千島橋まで行つと、こんやん。

・回覧島とつないであつたんですか。

・この時々、第二国道ができた時分は、信号のうこも勝手に  
のんきに渡れた時代ですから、もう大分になるやうな。  
単々なかんたんですか。

うん、車が少ないな。

第二国道というのは二号線のこと。

・第二国道はいつごろできましたか。

・大体大正十五年ぐらいだと思います。

・二國の道路の横には家あった。

・やっぱり飛び飛びやわ。

・飛び飛び一列やうとあって、お宮さんは姫島から見えよ。

たかうな。

ここから野甲のお宮さんが見えたり。

・そう、見えたわけや。いまの第一国道、初めの国道ありま、  
しや。あそこ辺見ええあたりや。

・田んぼばかり。工場があるらうたら、この姫島橋の一番前

ここにヤンマー 田んぼ 何かの倉庫か何か、それと

お盆やなにか 打ち出しよ ところが角っこにあるやな。

・ほうろうう会社みたいなところだ。

・姫島には、大阪製鋼の赤い煙と同時にあめで悩ませたところのは  
なかった。

・うちのの方は淀川の近くやけ、身にまにしこも、ほとんど  
わからせんや。

北村さんとこら辺はどうや。

煙でどうこうやうやうなことはなかったやな。

たとえば洗濯物がものすごく汚れるとか何とかいうのは……

・あんまりそんなこと女ごんなか言うてへんかったな。

・ただ出来島におばあさんがいた。そこはちやうど第二国道  
の公園に面したところや。洗濯物してたら、もうすべに取  
り入れんことには真っ黒けになんぬんや……



出来島は出さるわけ。ただ堀倉はどの辺まで飛んで入るかという  
うかがね。

大阪製鋼の煙草だったから、すぐ近くだけやな。

やっぱり粉塵は重いからな。

聞けると、堀倉は日本化学ですか。

うちな人が聞いた点では、その通りは結局二人とも死んだ  
わけか。井上のおいさんが大阪製鋼に勤まっていたんじゃな。  
会社でも公害ちゃんと言われたなかった。公害言うたら首  
切られるから、結局黙ってた。

死ぬる前は、そのまゝ行ってきたやろ。

そうそう。それこそ安定期から。それはインゴットの鉄から  
出る。カネがはけ出してたやつをへた落しというて、へた落  
として行っとった人や。

その通りは洗滌物は表に干すれんちやうこと言わうとる。

その角に、いままだレール残るとるやろが。そのレールの向  
うの方にや。大さなガスをとる炭と両方燃やしたん  
じゃ。

それは平野鉄エの向こう側。

とやけど、この付近は石炭のたにで洗滌物干すれん。

それは平野鉄エの粉塵ですか。

はいはい、さうです。

空が曇ってど人よりしるすが、さういうことはあるんですが。たとえ  
福の方に行くと、ほとんど一年中太陽が見えなかったみたいながあ  
るらしいけども、ニニウ辺はそんなことないんですが。青空見えたの。  
昭和三十年から四十年ころで。

やっぱり日曜日の朝、晴れた日が一番よう六甲連山でも見

えましてたけな。その合いは、天気の大陽の照ったあふとま  
どもほとんど見えな人だうに思ひますわ。あの人の言ひなど  
い最中は。

そういう被害が出てきて、何か文句と書いて実際に行動をやった  
のはいつごろが一番早い時期ですか。

・三十二年ぐらいからうぼつぼつと人なましの煙が出る。チャー  
のほ、溶鉱炉の中に酸素溶解をするようになってから、あ  
ないにたんだんですわ。

それで抗議をしたのはいつごろからですか。

田中電機がやるときに、皆晩さんらがやってきたよ、たか  
らな。あ、何年ぐらいやったか。

とら御幣島の話やる。御幣島へ向けに抗議はしたけど、姫島は  
とっかへ抗議に行つたか。

そのころは、あれが ラジマック に来たころは ニツロ に行つたな。

いや、僕が来た動かけたやつは、僕らが活動した歴史の中へ  
入るわけ。その前は全然僕、歴史がない。僕らは四十五年ぐらいから  
動いてるから、それ以降は大体出ると思はう。

・そのぐらいが初めてやないかな。

・三十二年のやつは載ってないわけやな。

歴史ってパンフレットやな。

・うん、パンフレット。

・あ、あしが三十五年に白川川におつたさかいに、あしの現役時分  
に一過会社へ言うてきたよ、こんな。現役時分に会社へ言う  
てきたんが三十二年ごろや、あしは三十五年に退職したから  
な。

誰が言うてきたんです。

A. 菅野さんや菅が行ったよな。

B. そう。—— 十とや、廿な。

どういふふうにきうていった。煙がすか。

B. 粉塵で洗濯物がすぐに赤くなるとか何とかでね。

とねは何年ごろ。

A. 昭和三十二年。

B. とねはもう三十七、八年。このころが一番やうな。三十五年

くらいまでまだ公害言やうあんまりやがましやう言あんやう

たんや。菅野さんらが来たはんの…… 会社は四十年にはもう

つぶれたんやけな。

とね。

田中電機。

こころは田中電機のこときうて、こころは大阪製鋼のこときうてな

B. 煙又出るのはどのも一統の仕事やから、同じべらうい。

田中電機もいどかしたらしいとすな。

・田中電機のやつはうちウニースに載ってます。ただ、大阪製鋼へ

何回となくに行ったり、大阪製鋼やあの辺からモーター取り

するのば、福やな。

・町は年間九十万円が五年くらいもらってる。

九十万円がどうかからんか、もつともらったかもしれんけど、仲介見と

してね。

・町の偉い人はもううとんの違うかな。—— 側とか、そのか

らああいううめながあったとこ見ると。

・あの時分が、いま言った三十二年ころやな。

三十二年に大阪製鋼へ菅野さんらが粉塵を問題にして言に行  
った。

それは福へ今度行かれたら、福でその話が出ますね。

福の人が主に来たわけですね。

・福が直下だからね。

・福の方の方は具体的に何かやられたというのには、昭和四十五、十六年くらいまでは何もなかったわけですか。

・最初、みんなと一緒にということになるのは、四十七年の総会をやった。銘々の公害がどうあるかというのを目指してきたところから始まる。それから、大塚。その前公害闘争と住民運動という区内全部含めてやったのは、エイカイセキの闘いに一番初め入ったんやね。僕らも入ったし、これから公害問題というのが本格的になった。後はもうシラミつぶしにいろんな工場へ行ってますね。やりだしたらね。

・その間に何か具体的な行動を起こしてなかったのかですね。  
・前、やっぱり行動しようた人はおたううけれども、表と、こあんまり言えんかった。クストロコヤキヤキに言わせりや、あんまり人からつかれるもんやから、臭い灰とぶらして、家の前に置いてある車とくわしたりなんかする者がおるもんやから、なまらだして自分から金を出して集塵機をつくったわけやからな。一番初めは、

それは二つござりますが。

それがやっぱり終戦直後のことばやね、もうあんた、終戦直後にあの川ぶちにインゴット工場つくったんじやからな。

集塵機つけたのはもっと後でしょ。

・集塵機は車と後。

・三十七、八年からいやったな。集塵機ができたん、な。

・いま水と金網とで集塵機になにしようね。

・植島がもう高い工場は見てなくて、土と家の間に囲まれていると

う感じでしょう。他のところと違っていて、岐阜という地域は白河村にま  
、黒になってもクモクモという感じにはならんわけやね。だから怒り  
が直接この地域からというのが少ないん違う。

・被害も感じますようになった。こまのためはいつごろでしょうが。  
・のどが痛いとか。

・初めそんなわけがわからんからな。何ほ咳とか痰が出るこ  
あ医者はんにかかったとしても、自然自然に深うなっこまよ  
すめな、そういうような人長年吸うてるから。こらやっぱり  
工場の被害やないうことばつぱつぱりわかりかけてきたんが、  
四十、三、三年ごろから。そめまどはもうわからんもんね。  
ほかの方も大体同じくいいますか。

・そうじゃ。皆晩先生が……もう市会議員になっったか。  
とのころ、えらい大阪ちゃんとは風邪をひくところやな、夏  
でもこんな風邪ひくんけ、こめしが言いはして治療しこもう  
たことあるんじや。

いつごろ、それ。  
かしが入院して困ったときが、川上あまーさんが死んだ年やが  
ら、その二年ぐらいつれ。

大阪市で公害神療法のいりやる認定が始まるのは四十五年でしょう。  
とのころからせんそくだっこのことがわかり始めたっこの人だけど、それ  
以外にせんそくの患者さんは身途にいませんでしたか。昭和三十年  
代とか。

・いや、それはせんそく「ちやうどわけじゃない。みんなそれは風  
邪やろ、なしこんなあつやろ、つれ……」  
・あからん。

・医者に行つたって、結局風邪薬をもううたり……

・とやから方々の医者へ転々としてはる人も……私らもそのと  
おりですわ。あこ行ったら治るかいな思うてね。

風邪ひきやすいつか、咳とか痰とかとまらないとか、なかなか風邪が  
治らないとかいうふうなことを感じ始めたのは大体いつごろからです  
か。

・私は四十六年一月に結婚してこっちへ来たんです。と前、いたと  
ころが名古屋市南区で三井化学のすぐ近所です。あのころもう  
大分サーサーいうてた。こっち来て、一年ぐらのおさま、こたか  
なと思つたら、四十六年十二月に一過発作起して、それか  
ら平うつとあれしてたけどね。

・あしは細におるときは何もなかつたんじゃないけど、細やうこち  
らへなあって、真向いにあんだがおつた。

・それは四十五年。

・その二年ぐらいと前やわ、四十三年か二年ぐらいたり、西淀川  
ちやうとはこんな風邪ひくんじゃから、晩は風邪ひくよう  
なふうにしておと、たふさるな いうて先生に言うたことあるもん。

・西淀川の大気汚染のピークが硫酸酸化物だと昭和三十八年ご  
ろと四十二年ごろなんですよ。

・あしらは、そのころから慢性気管支炎 言われようた。  
四十何年ごろからかな。

・三十七、八年ごろから、  
三十五、六年からぼつぼつ肺が悪うなつてきて、それから  
人わけ。

・私も大分慢性気管支炎 と言われたとは、川上さんが死  
んび一週間後や。

・おんな症状の出方が違つていろいろあつたとしても、本意に確信意識

と持ち出したのは、やっぱり裁判では、キリしことから、被害者が救済されるんだということ。それがない限り、どめがどうかというのは、ようわからなかったんですね。さうだったんはあのこと、やっぱり四日市裁判という、みんなを救済しようたりしころけど、やっぱり四日市裁判というのが……。それまでの間には、公堂をなくすということと公堂に直す文句をきこうというのが、四十四年の公堂国会以降一斉に目に向いた。四十四年から四十八年ぐらいの間に各地域一斉に聞いの山場を迎え、そこで裁判の判決がおり、それかウヤムヤにということ、被害者の救済へ走ったいたり、それかウヤムヤもう同じ経過を走ったかと思ふんですね。いままで黙って腹が立つころのが、急激に爆発した時期でもある。だから、小さな工場なんか、隣近所で工場をやることも受けでも息苦しい時代というのがあったんじゃないかな。そういうときは、みんな権利意識が一番高くなった時代だろうと思ふんです。流れば。

。キリはこの程度にして、小山先生の方から感想いだけたら……。私は聞かせていただくだけで、こういうのを結構重くさせていた。こ、由良川の区の後援のことも頭の中に何とか入れさせていた。いて、片方、いろんな資料を勉強いたします。そして、由良川の町が明治、大正の農林、漁村だったのが、こういうふうに変り果てて、漁業というものが、皆様の生きこられた姿もそこに生かしながら、由良川の新しい時代の歴史ということも何とか飯島先生、小山先生のお力でやっていただきました。そのことが同時に西良川の町をよりよくするために、あるいは弁護士の先生方にもお役に立つんじゃないか、地域の方々にもお役に立つんじゃないかと思っております。キリは初めてございまして、何にも知らんが地図を見てもなるようなわけで、二回目、三回目とたんだんたぬてきます。

から、語を聞く方法も上手になると思います。またおしゃまかせ  
こいたでくことになろうと思えますが、どうぞよろしくお願ひいたし  
ます。